



# 愛知登文会の取り組みを振り返る

日高 史帆

## 私と愛知登文会

私が入社以来現在まで継続して関わる唯一の業務が、「愛知登文会の事務局支援」である。スパーシアとしては二〇一一年の会設立以来十一年間受託しており、事務局支援としながら運営の大部分を担ってきた。私は会の活動が軌道に乗り、各事業が定例化してきた二〇一六年度から担当となった。計画系の業務において単年度あるいは数年度で終了する業務が多い中で、継続して担当することができ、自己研鑽の観点から、個人的にも大切にしてきた業務である。この度、愛知登文会の活動がひと区切りを迎えることから、これまでの活動を総括する。

## 会の立ち上げと文化庁補助制度

愛知登文会は、正式名称を愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会という。読んで字の如く、登録有形文化財の所有者を中心とする任意団体である。そもそも弊社と会の関わりは、現会長の小栗氏より小栗家住宅（二〇〇四年登録）の登録に際して相談いただいたことから始まる。その後、文化庁が地域活性化に係る新たな補助制度を立ち上げることを機に、愛知県教

育委員会の声掛けにより二〇一〇年三月に設立準備会を開催、幾度もの検討を重ね、翌年八月に愛知登文会が正式に設立した。会の活動の資金源の主たる部分は文化庁の補助金である。弊社はその補助事業の実施支援を行うコンサルとして、会事務局から委託される形で会の運営と活動に携わってきた。補助制度としては、連続で補助を受けられる期間は五年とされているが、二〇一三年と二〇一七年の二度にわたり制度が変更されたことにより、五年の区切りを迎える前に新規事業として採択され、これまで十一年連続で補助を受けることができた。そして今年度、現行事業が期間終了を迎える。来年度は総括評価を行う期間として補助事業に応募できない。会が始まって以来初めて補助金のない中の活動となるのである。

## これまでの活動

初年の二〇一一年は文化財の実態把握と入会者募集を兼ねたアンケートを実施したほか、保存活用の事例を学ぶ講座や県内外への視察などを多く盛り込んだ。対象者別に「所有者プロジェクト」「こどもプロジェクト」

「観光ボランティア連携プロジェクト」の三本柱で事業を展開し、所有者や観光ガイド自身の学びや、こどもの文化教育などに対し精力的に取り組んだ。二〇一四年度には近年の中心事業である建物特別公開（あいちのたてもの博覧会）を開始し、一般に向けた魅力発信の活動にも力を入れた。また、他都府県の登文会との交流も定期的に行い、二〇一七年と二〇一九年には大成建設の助成を受け、全国の登文会出席による情報交換会やシンポジウムを開催した。二〇二〇年には新型コロナウイルスの流行により活動の縮小を余儀なくされたが、その逆境をバネに文化財紹介動画のYouTube配信やシンポジウムのオンライン開催、より使いやすいアプリの開発に挑戦し、徐々に情報発信の範囲を広げようと現在も奮闘中である。

## 来年は挑戦の年

弊社が愛知登文会の支援をする上でなによりも大切にしているのは、仲間づくりである。老朽化や相続の悩みを受け継いできた誇りや喜びを共有するコミュニティとなるのが、所有者の会の一番の意義であると考えているからである。十一年間の活動を通して、県内各地に多くの協力者を得ることができた。補助金のない来年度、これまで培ってきた協力的体制でどこまで自力で活動できるか、挑戦の年になる。

愛知登文会の年度毎の活動

